

令和5年度 自己評価（活動報告）

学 校 教 育 計 画			香川県立多度津高等学校				
教育方針	(1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (3)自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。	(4)社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。					
前年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標		全体評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・全国枠での入学生徒の獲得を積極的に試み、成果を上げた。 ・インターンシップを可能な学科から再開し、生徒の就業体験を充実させる。 ・学科主任等による定期的な中学校訪問を行い、入学希望者を増やす工夫した。 ・メール配信システムの利用が定着して、きめ細かく情報を発信できるようになった。 ・学校ホームページの工夫や、学校紹介DVDの作成等を継続した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業界と連携し、専門教育の充実を図る。 ・各学科の特徴を深化させ、魅力ある学校づくりに努める。 ・各学科および学校の取り組みを校外に積極的に発信する。 ・広く社会から求められる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力を積極的に発信し、入学希望生徒を昨年以上に獲得する。 ・インターンシップを再開させる。校内への講師等招聘事業を充実させる。 ・学校ホームページやTAKOUかわら版、学校紹介DVD等を更新し、情報発信を充実させる。 ・日常の生徒指導を通して、挨拶や身だしなみの習慣、規範意識を身につけさせる。 		B		
評価項目	本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評 価		成果・反省点・次年度の課題等		
			中間	年度末			
1	総務	校外学習や芸術鑑賞など各種行事が円滑に実施できるよう努める。	全体で行う行事では、各科に声を掛け、段取り良く進めていく。新型コロナ対策による実施時期は柔軟に対応していく。	B	B	各行事コロナ前の状態に戻ったが、柔軟に対応していた。校外学習については、早い時期からの準備、打ち合わせの必要性を感じた。口	
2	教務	各分掌、学科、学年団等と連携し、学校行事を円滑に行う。	組織全体で関係職員が行事等に積極的に関わることができ環境を整える。コロナ禍での学校行事の実施方法を整える。	B	A	行事の形態が以前のものに戻すことも含め、年度当初計画していた行事について、円滑に実施することができた。	
3	特別活動	生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。	可能な限り以前のような活動に戻していき、学校行事を充実させる。	B	B	多高祭で多くの来場者があり、校外の方との交流ができたとともに、クラス、委員等で協力できた。	
4	生徒指導	懲戒等、指導を受ける生徒数の減少。下校時のルール・マナーの遵守。	発生状況を分析し事前に予防する。学校周辺の立哨指導やホームルーム等での注意喚起。	C	C	家庭の協力が必要であり、重要になってくる内容も多いが、予防を徹底したい。	
5	教育相談	教育相談体制の充実。	カウンセリングにより支援の必要な生徒を把握し、個に応じた支援をする。SC、SSWや外部機関との連携をとる。	B	A	支援が必要な生徒が多く、教員のSC・SSWの認識が変わり、一掃に対応できるようになってきた。部内で今後必要と思われる事例研修会を開いた。	
6	進路指導	生徒の希望に沿い、適性に応じた進路実現100%を目指す。	就職はあらゆる機会を活用して各種情報の公開と相談を行う。進路は情報を得る機会を増やし、受験対策について考えていく。	A	A	情報交換会を通して共有したり、ジョブサポーターティチャによる進路相談を行い、情報提供をすることができた。	
7	人権・同和教育	いろいろな人権問題について生徒に正しく認識させ、問題解決のための行動力と実践力を身に付けさせる。	差別解消の主体であることを自覚させる。障害者との共同学習および交流学習を通じて人権意識を高める。	B	B	来年度はさらに現職教育の充実や希望制での教職員向け人権学習会の開催を考えている。	
8	保健管理	自己管理や安全に対して意識できる生活習慣を育成する。	体調管理の意識付けをする。新型コロナの情報や啓発を継続する。性教育講演会、AED講習会を実施する。	B	A	各種講習会を実施できた。安全衛生委員会は例年以上の開催ができた。来年度も積極的な保健活動を行ってきたい。	
9	いじめ防止対策	いじめの早期発見に努め、深刻な事態の発生を未然に防ぐ。	生徒情報の収集、共有を図る機会を設け、生徒の実態をよりの確に把握する。	B	B	関係教員間で報告・相談ができていた。抱え込まずにチームとして対応ができるようにしていきたい。	
10 学 年 団	1年団	基本的な生活習慣を確立させ、社会性や公共心を身につけさせ、落ち着いた行動ができるように指導する。	基本的な生活習慣の徹底を図り、落ち着いた学校生活が送れるようにする。個々に応じた適切な指導を行う。	B	B	落ち着いた高校生活を送れているものが大半であるが、気になる生徒には継続して個別指導を行いたい。	
	2年団	進路意識を高め、早い時期から具体的な目標を持てるように指導する。	あらゆる機会を有効に利用し、進路指導部および各科と連携して、生徒が早期に進路目標を設定できるように保護者に協力を仰ぐ。	C	B	面接、懇談等を通して進路意識が高まりつつある。より具体的な目標設定に向けて、各科と協力して指導していきたい。	
	3年団	生徒の希望する進路目標達成のための適切な学習指導・生活指導にあたる。	個人面接を頻繁に行い、生徒の進路希望と適性を的確に把握したうえで、必要な学習指導・生活指導にあたる。	A	A	ほぼ全員の生徒について、就職先が内定したり、大学・専門学校に合格できた。それぞれの目的に合った進路が実現できた。	
13 教 科 指 導	普通科	国語	文章の内容を正確に読み取り、主題や要旨を的確にまとめる。	国語辞典の利用や書取テストの練習などを通して漢字や語句の力をつけさせる。	B	B	言葉の学習や読むことに興味をもち、積極的に取り組めるよう、引き続き指導したい。
		地・公	高校生・社会人に必要とされる基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする。	興味・関心をひき出す話題や教材の提示。板書事項の精選。ノートの整理・記録やワークシートへの用語記入の徹底。	B	A	視覚教材を使い、興味を持たせるようにした。課題の提出状況はおおむね良かった。復習プリントや確認テストも実施した。
		数学	基礎学力の定着。	分かりやすい授業の工夫。課題提出の徹底。追試や補習授業など特別指導及び個別指導。	B	B	わかりやすい授業を工夫している。基礎学力の定着や、進学希望者の学力向上のための指導を継続していきたい。
		理科	自然科学の原理・法則に基づく思考力を習得させ、進路に必要な学力や自然観を育てる。	専門の学習内容に関連付けて授業を展開し、科学的な側面から思考力や基礎学力の定着を図る。	B	B	他教科の関連する内容を付け加え、生徒はうまく整理できず、学習内容を精選して理解させるのが精一杯であった。今後も工夫していきたい。
		保体	集団と個人の安全面について理解させ、事故や怪我を未然に防止する。	集団と個人のそれぞれの安全面について理解させ、教員間の情報共有の徹底をはかる。	B	B	情報共有により授業中の怪我は減少した。支援を要する生徒もおり、情報共有を徹底して事故防止に努めていきたい。
		芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	芸術に関わる伝統と文化と豊かに関わる機会を増やすため、身近な芸術作品を掲	B	B	感覚教材を活用した鑑賞活動や調べ学習を行った。今後も効率的な学習に加え、相互の言語活動を充実させたい。
		英語	興味・関心を高め、異文化を理解する態度と積極的にコミュニケーションをとる態度を身に着ける。	授業以外でも、積極的にALTとのコミュニケーションをとる。提出物を必ず提出させる。	B	B	ALTとの授業では積極的に授業に取り組み姿勢がみられる。提出物に関しては、ほとんどの生徒が期限を守って提出できる。
		家庭	家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る。	個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術と自ら判断・対処ができる知識の定着を図る。	B	B	家庭生活に必要な知識・技術を概ね身に付けさせることができた。自ら判断・対処できる力につながる授業を努めていきたい。
		機械	志願者の増加	資格会・体験入学・多高祭等において生徒作品の展示会や実習の見学・体験を積極的にを行い、機械科の学習内容や魅力の理解を広める。	C	B	自己推薦では志望者が増加した。次年度は近隣中学校等で出前授業等を実施し、機械科の魅力を発信したい。
		電気	電気の専門分野に関する基礎知識や技能を身につけさせ、将来の電気技術者を育てる。	AIなどの先端技術に触れさせながら、専門教科に興味関心が持てるよう指導する。	B	B	AI等の先端技術にも積極的に取り組み、成果があった。多高祭に展示した作品には多くの評価をもらった。新たな作品製作にチャレンジさせたい。
23	専門科	土木	基礎的な知識・技術を定着させ、土木技術者に求められる資質や能力、態度を養う。	座学と実習を関連付けて、実践的・体験的な活動から学習の動機づけを図る。	B	B	体験的な学習を通じて、学習意欲および就業意識の向上につながった。資格試験の積極的な挑戦を促し、対応策も検討したい。
24		建築	建築に触れる機会を増やし、将来に向けて目標意識の向上を目指す。	I C Tを使った授業で視覚的な情報教育を増やす。現場見学会や講習会を実施する。	A	A	タブレットを利用した学習など通じて興味や関心を向上させた。現場見学会などを実施することで、積極的な生徒が増えた。
25		技術	基本的な生活・学習習慣を確立する。	規律を守り、間合いの取り方を指導することにより、良好な対人関係を構築させ、乗船実習や進路先に適応できる社会一般常識、協調性を身に付けさせる。	C	C	生徒に次年度への準備、心構えなど成果ができてきた。船員を希望する者が増えたが、海技士試験の合格者が減少した。今後の指導方法を検討中。
26		生産	進路指導の充実と海洋生産科の学科としての魅力を更にアップさせる。	学習指導要領の改訂や変化する社会情勢に柔軟に対応すべく、学科の設置目標を明確にし、教育課程、学習内容を積極的に見直ししていく。	C	C	地域などから商品開発等、研究依頼が多く、十分に伝えることが出来なかった。実践的で、高度な学習・実習内容を実施したい。

※年度末評価（最終目標達成見込み）：A 80%以上（順調に実施でき目標を達成できた） B：79～60%（やや遅れ気味であったが目標は達成できた） C：59～40%（遅れ気味で目標達成が難しい） D：39%未満（年度内の目標達成が困難である）